



プラトー44%、ビエラ20%それぞれ縮小

イ・日、BG繊維分科会開かれる

第17回イタリア・日本ビジネス・グループの「繊維・ファッション分科会」が6月10日、FDCで行われた。テーマは「ファッション震源地・尾州、ビエラの産業クラスター交流」で、出席者はイタリア＝ビエラ織物工業会マルコ・デッラ・クローチェ会長、日本＝長尾大八郎毛工連理事長ら5名。このなかで、イタリア、日本とも産地ブランドを掲げて産地再生をはかっていることなどが話し合われた。

産地ブランド「BAOE」立ち上げ

会議では挨拶について、尾州産地の現状に関してFDC山口専務理事が

- ① 尾州産地は毛織物で100年の歴史のある産地。全国シェアは梳毛織物60%、紡毛織物70%。
- ② ウールを中心とした糸、撚糸、染色、織布、仕上げ、補修などが集積しているが、大半が中小企業で構成されている。
- ③ 取り巻く環境は厳しく10年前に比較して売上規模は半減している。
- ④ FDCは20年の歴史。情報収集・分析、商品開発、人材育成をポイントに活動している。
- ⑤ FDCは3年前にニューFDCとして「ビジネスに貢献できる」をコンセプトに活動を強化した。
- ⑥ 昨年、関係機関、関係者と一体となって「JBブランド」を構築、世界に商品を

売る体制を固めた。

と説明した。

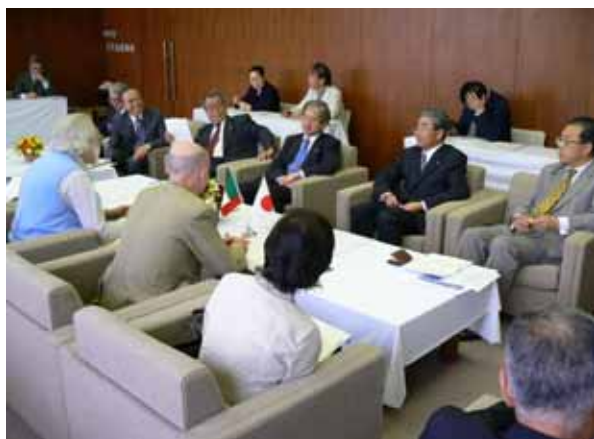
これに対してイタリア側から「尾州産地のターゲットは？」との質問があり、日本側は「各社特徴があるが、全体的には高級ゾーン」と答えた。

イタリアの現状についてクローチェ会長は以下のように述べた。

「国際化の問題もあり、とくに織物とアパレルが顕著に影響を受けている。イタリアのウール2産地（ビエラ、プラトー）のうちビエラは高級層、プラトーは低い層（低価格層）に特徴があるが、ビエラは高級品を作っているにもかかわらず、危機的である。旧東欧、中国、インドからの製品流入がその要因である」

「両産地の現状は3年前に比較してビエラ・20%減、プラトー・44%減で、苦境の背景は国際化問題（※中国の存在）のほか、

- ① イタリア人がフォーマルを着なくなった。
- ② この2、3年でアパレル消費が15%減少した。
- ③ テレビゲームや携帯など消費が他に移った。
- ④ ユーロ高



が上げられる。」

「この対策第1としてブランドを立ち上げた。これはビエラ・ザ・アート・エクセレンス（BAOE＝優れものの芸術、という意味）というブランドを2003年に立ち上げた。現在イタリアの著名テキスタイルブランド会社33社が参加している」

「この認可条件は「紡績、織布、仕上げの3工程のうち、2工程をビエラで行っていること、品質検査に合格したものの2つである。33社はビエラ地区1,100社の企業の内わずかではあるが、売上合計は大きい。入会資格審査は学識経験者3名に委嘱している。BAOEは年間400万ユーロを投資しているが、その費用は33社負担のほか、一部州政府の援助、民間企業の協賛で捻出している」

「第2の対策はウールに関する芸術品の

収集と展示と文化財修復である。これはビエラ地方の文化、美しい自然、羊毛産業を融合してプロモーションする展示場の運営やイベントの開催であるこの背景は文化は哲学、産業と切り離せない、糸は文化の一つの印との考えで、200年前の紡績工場の修復を行い、ウールに関係のある芸術品、例えば200年前の織物を集め、展示している。「著名デザイナーが研究に来る」という。「さらにビエラは文化を支える」の観点から古い文化財の修復費用を負担している。

「対策の第3として原産地表示義務化を推進している。原産地表示を義務付けていないのは欧州だけである。原産地ブランドのエクイティ（ブランド価値）は、知名度の低いブランドより、はるかに強いので、その義務付けを提唱している」

第50回 おりものの感謝祭

一宮七夕まつり

今年で、七夕まつり50周年

楽しいイベント盛り沢山

いよいよ始まる、ときめきの4日間

会期 7月28日（木）～31日（日）

ぜひ、お越しください。